

第1節 環境について学び行動できる地域社会づくり



1 環境について学び行動できる地域社会づくり

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS



草津市では、持続可能な地域社会の実現に向けた環境学習の展開を総合的に進めています。環境学習の目的や意義について市民共通の認識をつくりながら、家庭・学校・職場など様々な場面で、生涯を通じて誰もが環境について学び行動できる地域社会づくりを進めて、未来に“くさつ環境文化”を伝えていきます。

1. 草津市こども環境会議

本市では、平成13年8月に第1回草津市こども環境会議を開催し、子どもたちを中心として市民・事業者・行政が協働した「環境まちづくり」を目指して、取組を進めてきました。

本市の環境基本計画では、環境学習の推進が重点的な取組と位置付けられ、地域資源を活用した環境学習・環境活動が、学校や市民グループ、NPO団体などで数多く行われ、また協働・連携によって活動の充実が図られています。

こども環境会議は、これらの活動を通じて交流し、子どもと大人が環境について話し合う場として実施してきました。草津の豊かな環境を将来に引き継げるように、今後もこれまでの成果をもとに、継続して地域での環境学習・環境活動を推進していくことが求められています。

このような背景から、地域協働合校や理科・環境教育の充実に力を入れる草津市教育委員会との連携により、「交流・つながりの深まり」「達成感」をテーマに、環境学習・環境活動がさらに活発化し、市民の中に「環境文化」が根づくよう、草津市こども環境会議を毎年1回開催しています。令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となりましたが、令和3年度、4年度はコロナ禍における開催方法を検討し、取組みの幅を広げることができました。

○令和3年度第20回草津市こども環境会議 広げよう！明日につなげるエコアクション

<交流の部>

新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となりました。

<展示の部>

環境学習の活動をまとめた壁新聞を募集、展示しました。

【開催日】 令和4年2月10日（木）～24日（木）

【会場】 草津市立クリーンセンター2階 くさつエコスタイルプラザ

【開催日】 令和4年2月26日（土）・27日（日）

【会場】 イオンモール草津 2階イオンホール

<情報発信の部>

団体等から募集した環境学習の活動をまとめた動画やメッセージをYouTube「くさつチャンネル」で発信しました。

【開催日】 令和4年2月17日（木）～3月7日（月）

○令和4年度第21回草津市こども環境会議 つながろう みんなで！まもろう 私たちのくらし！

<交流の部>

【開催日】 令和5年1月28日（土）

【会場】 草津市役所 2階特大会議室

新型コロナウイルスの感染拡大防止のためオンライン形式での開催となりました。

草津市役所をメイン会場にZoomを用いたビデオ会議でエコ活動取組み交流として、発表や質疑、意見交流を行い、「今からはじめる草津の『ゼロカーボン』」をテーマに温室効果ガスを減らすためにはどうすればよいか話し合いました。

<展示の部>

環境学習の活動をまとめた壁新聞を募集、展示しました。

【開催日】 令和5年2月9日（木）～22日（水）

【会場】 草津市立クリーンセンター2階 くさつエコスタイルプラザ

【開催日】 令和5年2月25日（土）・26日（日）

【会場】 イオンモール草津2階 イオンホール

<情報発信の部>

交流の部の様子や、団体等の活動をまとめた動画やメッセージをYouTube「くさつチャンネル」で発信しました。

【開催日】 令和5年2月16日（木）～3月7日（火）



図 2 - 1 - 4 こども環境会議の様子

主催：草津市こども環境会議実行委員会

後援：環境省近畿地方環境事務所、国土交通省近畿地方整備局、
公益財団法人日本環境協会、公益財団法人日本自然保護協会、
一般財団法人環境イノベーション情報機構、NHK 大津放送局、滋賀県、
滋賀県教育委員会、草津市教育委員会、草津市

協賛：草津ライオンズクラブ

2. 環境学習教材貸出・講師派遣事業を通じた環境教育（学習）の支援

本市では、平成20年度から「環境学習教材貸出事業」を、平成21年度から「講師派遣事業」を実施しています。学校、地域、企業、団体での環境学習や講座、環境関連のイベントのサポートとして、環境問題をわかりやすく説明するパネルや、実際に体験しながら環境について学習できる実験機器等の教材の貸出と、環境問題や自然環境について専門的な知識を持った講師の派遣を行っています。

○環境学習教材貸出および講師派遣実績の推移

表 2 - 1 - 3 貸出件数および講師派遣数の推移

年 度	貸出件数	派遣件数
R 2	1 6 件	1 0 件
R 3	2 9 件	1 3 件
R 4	3 2 件	1 6 件



図 2-1-7 教材例：お買い物ゲーム



図 2-1-8 講師派遣（狼川自然観察）

3. ワークショップ

平成30年3月に新クリーンセンターが稼働し、市内外からの施設見学者が増えました。環境問題への意識を深めるために、見学者を対象に、ごみの減量やリサイクル工作など各種ワークショップを実施しています。

表 2-1-5 ワークショップの実施件数

年 度	実施件数
R 2	3 件
R 3	1 0 件
R 4	8 件



図 2-1-9 ワークショップの様子

4. こどもエコクラブ

こどもエコクラブとは、幼児（3歳）から高校生までなら誰でも参加できる環境活動のクラブです。子どもたちの環境保全活動や環境学習を支援することにより、子どもたちが人と環境の関わりについて幅広い理解を深め、自然を大切に思う心や、環境問題解決に自ら考え行動する力を育成し、地域の環境保全活動の環を広げることを目的としています。

この事業は、公益財団法人日本環境協会が展開している事業であり、家族、学校のクラス、友達同士等でグループを作り、環境活動を実践するクラブとして登録するものです。

平成13年度に「こどもエコクラブ全国フェスティバル」が草津市で開催されたことをきっかけに、市内でも多数のクラブが活動しています。登録クラブには子ども達が環境活動を体験するきっかけとなる、活動に役立つツールやニュースレターが配布されます。

毎年全国フェスティバルが開催されており、国立オリンピック記念青少年総合センター等で行われておりましたが、近年はオンライン形式、ハイブリッド形式で開催されています。

表2-1-4 クラブ数、クラブ員数の推移（草津市）

年 度	登録クラブ数	クラブ員数
R 2	1 2	2, 7 5 1人
R 3	1 3	2, 8 6 7人
R 4	1 3	2, 9 2 4人

表2-1-5 エコクラブ全国フェスティバル参加クラブ

開催年度	参加クラブ名	開催地
H 2 6	渋川小学校生き物学習実行委員会	早稲田大学
H 2 7	NPOこどもネットワークセンター天気村 こんぺい とうクラブ	早稲田大学
R 3	NPOこどもネットワークセンター天気村 こんぺい とうクラブ	オンライン

5. その他

(1) エコ・スクール

エコ・スクール事業は、滋賀県が実施しています。滋賀県のエコ・スクールは、将来の社会づくりの主役となる児童・生徒が、主体的に環境学習・保全活動に取り組む力を身につけることを目指した、学校全体の活動プログラムです。重要な視点として「子どもたちが主体的に取り組んでいる」「今後のつながりがある」「地域と連携して活動がおこなわれている」の3つが挙げられています。

草津市では次の学校が登録認定されています。

表 2-1-6 エコ・スクール

令和2年度エコ・スクール認定校

学校名	活動テーマ（キックオフ宣言）
草津市立笠縫東小学校	人と人、人と自然のつながりを学び、主体的に環境に関わろうとする東っ子
草津市立渋川小学校	地域の人々をつくる『渋川ESDミュージアム』
草津市立老上小学校	もっと老上 ずっと老上 ～学校や地域から環境について考えよう～

令和3年度エコ・スクール認定校

学校名	活動テーマ（キックオフ宣言）
草津市立笠縫東小学校	人と人、人と自然のつながりを学び、主体的に環境に関わろうとする東っ子
草津市立渋川小学校	地域の人々をつくる『渋川ESDミュージアム』

令和4年度エコ・スクール認定校

学校名	活動テーマ（キックオフ宣言）
草津市立笠縫東小学校	人と人、人と自然のつながりを学び、主体的に環境に関わろうとする東っ子
草津市立渋川小学校	地域の人々をつくる『渋川ESDミュージアム』

(2) ESDに向けた取組

「国連ESDの10年（DESD）」（2005年～2014年）及び「ESDに関するグローバル・アクション・プログラム（GAP）」（2015年～2019年）の後継として、2020年～2030年におけるESDの国際的な実施枠組みである「持続可能な開発のための教育：SDGs実現に向けて（ESD for 2030）」が、2019年11月の第40回ユネスコ総会で採択され、同年12月の第74回国連総会で承認されました。ESD for 2030は、ESDの強化とSDGsの17の全ての目標実現への貢献を通じて、より公正で持続可能な世界の構築を目指すものです。

草津市では、子どもたちが身の回りの事象を地球規模で考え、他者と協働して身近なことから行動することにより自己肯定力ややり抜く力、主体性・探究性・協働性・社会性を養うため、「総合的な学習の時間」を中心に、地域と学校に共通する課題解決のために、教科で学んだ知識を活用して、地域と協働して学習する「スクールESDくさつプロジェクト」を市内小中学校で実施します。令和4・5年度は、モデル校3校（老上小学校、常盤小学校、松原中学校）を指定し、ESDの視点に立った学習プログラムの開発と検証を行っています。令和6年度からは、全小中学校で地域協働を核にESDの視点に立った学習活動を実践していきます。令和12年度をゴールに、持続可能な社会の創り手となる人材の育成を図り、各学校が地域の特性を活かした特色ある学校経営の活性化を図ります。

● ESDは Education for Sustainable Development の略で「持続可能な開発のための教育」と訳されています。今、世界には気候変動、生物多様性の喪失、資源の枯渇、貧困の拡大等人類の開発活動に起因する様々な問題があります。ESDとは、これらの現代社会の問題を自らの問題として主体的に捉え、人類が将来の世代にわたり恵み豊かな生活を確保できるよう、身近なところから取り組む（think globally, act locally）ことで、問題の解決につながる新たな価値観や行動等の変容をもたらし、持続可能な社会を実現していくことを目指して行う学習・教育活動です。つまり、ESDは持続可能な社会の創り手を育む教育です。



関連する様々な分野を“持続可能な社会の構築”の観点からつなげ、総合的に取り組むことが必要です。

（文部科学省ホームページより）

図2-1-5 ESDの概念図